

双塔



新潟教会 2014年2月

No. 309

マスクも大事ですね

助任司祭 ナジ・エデルベルトゥス

前月の19日に花園教会で行われたキリスト教一致祈祷週間中心集会に与るために、新潟駅から教会まで歩いて行ってきました。行くときに帽子を忘れて、冷たい雪が降って頭に当たったので、防寒の服を持ってない方々の事もふと思い出しました。それに、毎日曜日に新潟教会まで歩いて行く信者達の気持ちも思い出しました。2月〔如月〕は昔から寒い月として知られているので、行きたくない気持ちを乗り越えるために、防寒の服以上の準備は必要でしょう。ミサに与る事が出来るように勇気と忍耐を祈り求める人もいると思います。聖パウロはそれを含めて武具と呼びました。

武具と言えば戦いを思い出します。パウロはキリスト者の生活を「戦い」と例えられています。悪魔の策略に対する戦いです（エフェソ 6・10-18）。神に示された道を歩んでいる人間を邪魔するため、嘘の父（ヨハネ 8・44）であるサタンはほえたける獅子のように誰かを食いくそうと探し回っています（Iペトロ 5・8）。パウロは、ローマ兵達が自分の体や命を防衛する武具を身につけると同様に、キリスト信者にキリストの価値観を身につけるようにと勧められます。真理と誠実のベルト（エフェソ 6・14）はキリスト信者を一致させます（同 4・3 参照）。正義の胸当て（同 6・14）がなければ清さも失われ、平和も実らなくなります。平和の福音を告げる努力というサンダル（同 6・15）を忘れないことや、ダビデのように力は神からくるといふ信仰を盾として持つように（同 6・16）と。悪罵の放つ火の矢を避けるために、キリストの体に属していること（同 3・6）すなわち救いを兜（同 6・17）とすること、それに霊の剣である神の言葉（同 6・17）を大切にすることです。神の言葉は自分の目に光を与え、歩むために闇を切り開く灯と考える詩編作者もいました（詩編 119・105）。

パウロが現代日本に生活していたら、風邪を予防するためのマスクを「忍耐」で例えられるかもしれません。仕事場でキリスト教を「アーメン、ソーメン宗教」と呼ばれたので、宗教が話題になると心配して避ける信者もいます。考えてみるとアーメンという言葉を知っている人は少なくとも何かで読んだか、または教会に来たことがあるので、説明を頼まれる時に備え神の言葉を覚えておきましょう。いつも準備なさい（Iペトロ 3・15）。深い説明を未信者から求められなくても、神の言葉を学ぶことはイエス様を知ることであり、魂に力と喜びを齎します（エフェソ 4・14-15 参照）。イエス様は食べ物より大切です。

「神の言葉は正しく、私の心の喜び、神のみ旨は清く私の目を開く」という詩編作者の証しを思い出す方もいると思います（119・43）。

神の言葉は霊の剣であり、忍耐を齎し、心を清くし悪魔の風を防ぐマスクのようにもなるでしょう。冬の間ノロウイルスや新型インフルエンザの心配がありますが、マスクや帽子は勿論、また聖ブラシオの取次ぎによって恵みを願いながら頑張っていきましょう！